

2021.3.6

学校体育同志会

奈良ブロック例会レポート

二階堂養護学校 岸田泰典

## 高等部 2 年体育 野球サーキットについて

今年度の 2 学期、高等部 2 年生の「はなグループ 体育」の授業で野球サーキットに取り組んだ。2 学期は運動会があり、学年種目の競技発表を見越した上での課題設定だった。

1 学期のサーキットでの取り組みを通して、器具を使うことで生徒達の動きが引き出されることに気付かされた（巧技台は上り下り、木製はしごはまたいで渡る、ボールは拾って入れる、コーン+ハードルはくぐるといったように。）。私自身久し振りに体育の授業を受け持つことになり、体育館で色々な器具を試してみた。本学年は 1 年生時にもバッティングティーを使ったボールを打つ学習内容に取り組んでいたと学年の教員から聞いた。バッティングをサーキットに取り入れたい、また、野球の要素をどこまで組み込めるかを考えた。

高等部の生徒グループは「ほし」「はな」の 2 グループより構成されている。はなグループは、より支援が必要な生徒の実態があるグループである。体育の授業は週に 2 回、1 時間ずつ（40 分授業）行っている。月曜日は体育館、もしくは運動場で行っている。木曜日はプレイルームで行っている。プレイルームは狭いため、速く走ったり大きく動いたりするよりも、一つ一つの動きをピックアップして取り組むなど工夫している。また、夏期は暑かったため、月曜日の授業をプラットホームで行ったこともあった。また、高等部 2 年生はなグループは 1 2 名である。本授業は主指導教員 1 名、サブ教員 5 名の計 6 名で野球サーキットに取り組んだ。

運動会は 10 月 13 日(火)の午前、新型コロナウイルス感染症対策のため、学部別実施で高等部のみ、保護者観覧なしで行われた。学年種目の内容について、学年の運動会担当教員で話し合った。はなグループが 1 年でバッティングをしていたこと、ほしグループが 2 学期に野球（キャッチボール、トスバッティング、ベースランニングなどからゲームへ）に取り組むことから、甲子園を目指す野球部の練習風景をテーマに「Go to 甲子園」に決まった。

最初は体育館でベースを並べて、バッティングティーに置いたボール（テニスボール、もしくは直径 25 cm 程度のビニールボール）を置いて、ゴムのバットもしくはテニスラケットで打つ練習をした。打つことについては、全ての生徒がバットかラケットにボールを当てて前に飛ばすことができた。ビニールボールをバッティングティーに置くとき、安定するようにろうとを設置した上にボールを置くようにした。打つことに関しては皆、意欲的だった。両手持ちや片手持ちでバットやラケットを振っていた。バットは両手で持つよう促したこともあったが、麻痺もある生徒でやりにくい様子だったので、本人がしやすい形で取り組むようにした。しかし、練習を重ねる中で、自分から両手持ちに移行する姿が見られた。打ったら走って 1 塁を踏むことを伝えた。打った後で 1 塁まで走ることに 대해서는、直進したり打球を追いかけたりする生徒がいたので、練習が必要だと感じた。1 塁まで走って本塁に戻る生徒もいた。

ベースはホームベース、1 塁、3 塁の 3 つとした。ベースランニングは、バッティングとは分けて練習した。最初は一人で打って走る練習をした。どうしてもベースを踏み忘れることが見られた。教員が先

導する形で、集団で連なって本塁から1塁、3塁、さらに本塁と1周回る取組を行った。その都度、ベースを踏むようにも伝え、教員と連鎖してベースを踏むことができるようにした。1塁に向かう目印に、教員がタッチボードを持って1塁向こうに立つようにした。生徒がタッチボードめがけて走り、結果的に1塁まで走れるようにした。

3塁付近にボールかごを置いておき、拾って投げる。投げる先はミニサッカーゴールにビニールシートを貼ったゴールである。ボールを持った生徒はゴールメットを意識し、勢いよく投げ込むことのできる者が多かった。勢いはなくとも、上から落としたり、放ったボールがバウンドしゴールに届かせることのできた生徒もいた。皆、ゴールを意識し、そこにボールも向けることができた。

ボールを投げた後は本塁まで帰ってくる。教員の言葉掛けや、ベースランニングの練習、またサーキットの一連の流れを繰り返し取り練習することで、打ってから戻ってくるまでの流れを、生徒達が経験を通して見通しをもってできるようになっていった。

運動会が近づき、グループでの学習を種目に組み入れる段階で、全体の流れがスムーズに展開されるように、若干のコース変更をした。運動会の学年種目は3つの場面から構成される。場面①「ほしG キャッチボール」(2分)、場面②「はなG バッティング・走塁・投球」(8分)、場面③「ほしG 守備・送球」(5分)である。はなグループは場面②を担当した。なるべく動きやすく、活動が分かりやすく、かつ見てもらいやすい(動画撮影していたため)内容を心掛けた。呼名された生徒が打席に入り、ホイッスルを合図にバッティングティーに置かれたボールを打つ。打った後は直線に前方へと走る。先には、大きく両手のシルエットが描かれたタッチボードがある。タッチボードは美術の時間に制作した。タッチボードに両手をついた後は、右向け右をして拾うことができるように、足元にテニスボールを入れたかごを置いた。向かって前方、ホームベースから見て右側にはゴールネットを配置した。投球し、ボールがネットに貼られたビニールシートに当たり、音と共に投げた実感がもてるようにした。授業では最初はブルーシートを張っていたが、運動会に向けてシートは透明のものを使用し、中央には的をカラーペンで書いた。最初はゴールをホームベースから見て左側、観客席側に配置していたため、観客席から投球の様子が見えるようにシートを透明にした。投球を終えた生徒は回れ左をして、直進し、観客席のベンチへと戻るようにした。授業では投球後はホームベースに返り、1周回ってゴールとしていた。しかし、運動会競技ではスタートとゴールを分けて、直線的に前に進むような流れの方が、次の場面につながるイメージをもつことができる、また生徒達にとっても場面が変わることで「やり終えた」実感がもちやすいのではないかと考えてコース設定をした。場面①と場面③のほしGの競技の際は、美術で作ったカンフーバットや応援ボードを持って、友達を応援して競技を盛り上げた。

生徒達の打順について、一人一人が参加しやすく、また、競技の流れもスムーズに進行するように心掛けた。一人一人の実態を述べたい。普段からサーキットに意欲的に取り組む姿が見られたA君を1番にした。また、運動が得意で身体能力が高く、落ち着きがあるB君を2番にした。3番のCさんは動きがゆっくりで移動に支援が必要であるが、練習して見通しをもつことで落ち着いて取り組むことができると考えた。4番のD君は不安やしんどさを感じるとうずくまったり泣いたりしてしまうが、繰り返し取り組むことで自主的に行動し、持っている力の強さやバランスを発揮することができる。5番のE君は練習を重ねてバットの両手持ちができるようになった。意欲があり、呼名に応じて進んで取り組むことができる。6番のF君は落ち着きがあり運動能力やバランス感覚も高く、よく見て模倣しようとする姿勢がある。7番のG君は思い切り打ったり走ったり、大きな動きがある。練習の成果を思い切り出し

てほしかった。8番のHさんは落ち着きがあり少しのことでは慌てないが、よく見て内容を理解しており、模倣も細かくしてみせることができる。9番のI君は普段はものを投げて反応を見ることも好きだが、バットやボールの使い方を理解しており、コースを促すことで動作をつなげることができる。10番のJ君は体に麻痺があるが元気に応答し、繰り返すことで道具を使うコツをつかんでいくことができる。11番、ラストバッターK君は遠投が得意である。バッティングはよく狙って片手打ち、両手打ちができる。丁度よい間（タイミング）をとってバットで打つため、打順は最後が望ましいと考えた。誰もが野球サーキットを通して一つ一つの内容や、連続したコースについて繰り返し取り組んで練習を重ねた。

運動会当日。天候にも恵まれ、みんな生き生きと競技に取り組むことができた。観客はいなかったが、撮影した動画を保護者に見ていただくことになっていた。結局、2学期末保護者会で、教室を借りてビデオ上映し、来校された際に見ていただけた。運動会では観客はいない状況だったが、発表に伴う緊張感をもって、それと向き合って競技をやりきる気持ちで取り組んでいたように感じられた。名前を呼ばれて打席に立ち、バットやラケットでボールを打つ。打ったらすぐに走って、目標のタッチボード（手形）にタッチする。その後はテニスボールを拾って、風が吹く中でゴールネットめがけて思い切りボールを投げた。最後はテント内の席まで勢いよく走って戻った。生徒達は限られた時間を意識しながら、練習してきた内容を一生懸命に取り組む姿が見られた。教員は生徒達の力が十分に発揮できるように要所で最低限の支援をした。また、学年種目ならでのこととして、ほしグループの生徒達が道具の準備だけでなく、はなグループの生徒のタイミングを見てボールを置いたり、ゴールネットや、タッチボードの設置された台を運んだり、友達のサポートをしながら自分達の競技も行った。学年みんなで種目を作っていく、発表しているという実感を我々教員も改めて実感することができた。

運動会後の授業について述べたい。新体力テストで3つの種目に取り組んだ。ソフトボール投げ、50m走、立ち幅跳びの計測をした。投球やスタートダッシュの練習をする際、サーキットの流れの中で取り組むことができるようにした。バッティングをしてから投球に移行したり、よーいどん、の合図でスタートしてタッチボードまで走るといったようにした。また、バッティングとピッチングの間にフープ跳びを設置し、両足跳びで耐幅跳びの動きを体験できるようにした。計測は運動場で行うため、木曜日に練習をすることが多かったが、天候の関係で月曜日にも運動場に出られない日が続いた。でも、その代わりにプレイルームだけでなく、体育館でもテニスボールを思い切り投げると行った練習をじっくりと行うことができた。運動場で結果的に3種目とも計測ができた。いろいろと支援の手だてを行い、記録の数字よりも内容に向かう姿勢や、結果的に取り組めたこと自体がよかったのではないかと考えている。やりきったこと、努力した結果として記録を残せたことがよかった。いろいろと支援を行った上ではあるが、昨年より記録を更新できた生徒も多かった。そういった取組ができた理由に、サーキットを続けたことが多く含まれていると考えている。サーキットに取り組む中で、新体力テストを含めた様々な内容につながる動きを、実際にやってみることで学習することができた。

新体力テストを終えた後も、バッティング～遠投～立ち幅跳びや、50m（バッティング、遠投を組込んで）のサーキットを実施した。3学期は1輪車（手押し車）を使ったサーキットに取り組んでいる。年間通したサーキットは、体を動かす力、道具を使う力、内容を理解する力など、組み合わせられた内容を通して、生徒の持つ力も横にも縦にも関連づけられながら伸ばすことのできる取組ではないかと考えている。これからも生徒達がやりがいをもって内容に取り組み、できる実感をもって体験を重ねていけ

るような授業をしていきたい。

「野球サーキット」について

○学習内容

・野球サーキット（打つ、走る、踏む、投げる、取る）

○ねらい（高等部 ほしはな体育 めやす表より）

・ボールに関心を持ち、使用し体を動かすことができる。

・器具の活用の仕方を理解し取り組める。

・簡易なルールでゲームをすることができる。

○動画資料「運動会での高2 学年種目記録」